

令和七年度

名寄市立大学

学校推薦型選抜・社会人選抜

小論文問題

試験時間 一〇時〇〇分～一一時三〇分（九〇分）

*受験上の注意

- ① 指示があるまで開いてはいけない。
- ② 指示に従って、静粛に行動すること。
- ③ 机上には、受験票、HBの黒鉛筆またはシャープペンシル（シャープペンシルの芯はケースから取り出したもの）、消しゴム、鉛筆キャップ、鉛筆削り、時計、眼鏡、目薬、ハンカチ、ティッシュペーパー（袋・箱から取り出したもの）以外、不要な物は置かないこと。
- ④ 質問、用便その他、特に必要のある場合は黙って手を挙げ、指示を求めること。
- ⑤ 不正を行ったものは試験を中止し、以後の受験資格を失うものとする。

次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

AIの出現で、「自分の仕事がなくなる」と大騒ぎになっています。

たとえばなんらかのテストに合格するというのは、もはやその人の知性をなんら保証するものではないということが明々白々となってきました。

「まじめな人であれ」「平凡な人であれ」という価値観。いや、むしろ「このテストにパスできる人間になれ」とか「ほかの人を出し抜いてエリートになれ」といった価値観が否定され、そのことが受け入れられるようになるのは時間の問題です。

誰だって、好きこのんでテスト勉強をしてきたわけではありません。自分のやりたいことを我慢して、でもそれが将来のためだからと信じてテストのための勉強、勉強のための勉強をしてきた人が大半でしょう。

しかし、それに高い価値がある時代はまもなく終わります。

いや、実際のところもっと昔から、テスト勉強によって得られる地位は、それ以外の勉強を重ねた人が得られる地位よりもそれほど高いわけではありませんでした。

たとえば漫画家、小説家、歌手、そのほか「アーティスト」といった人たちにテスト勉強は必要ないかもしれません。その代わり、そうした表現活動で食べていくのは難しかったし、今だって簡単とは言えません。

しかし、10年前に比べて、表現労働によって生きる人はずっと増えている印象があります。同人作家、YouTuber、ライター、note などなど、自己の表現をマネタイズする手段はひと昔前に比べれば豊富すぎるほどです。

かつて本を書いて暮らすというのは大変なことでした。まず原稿を書くよりも先に、編集者に対して、「自分はそんじょそらの人間とは違う人間なのだ」と納得してもらわなければならなかった。もしもそれをすっ飛ばして原稿だけ書いて持ち込んだとしても、「そんじょそらの人間」だと思われたら読んでさえもらえません。

筆者も文章を書く仕事をしてもう30年になりますが、自分の文章を最後まで自信を持って読んでもらえるようになるまでには時間がかかりました。本書だって、最後まで読んでくれる読者は、冒頭の数行、数文字を読んでもくれる読者よりは必ず少ないのです。

AIは「普通の人」や「普通のエリート」に求められるようなことは、ほぼ全てできません。個性のない仕事は全てAIがやるようになっていくでしょう。

あとは法的な整理がどこまで追いついてくるか。たとえば人間以外の人が弁護士になれるのか、会社の代表になれるのか。そういったことが整理されるまで、人間は一種の

人身御供^{ひとみごけう}として、A Iの後見人として必要とされるはずです。

しかし、それもそんなに長い間は続かないし、そうしたときに人間の価値は相対的に下がっていくように見えるかもしれません。

このような時代に価値を持つ能力とは、これまでどちらかというと無価値と思われる2つの能力でしょう。

一つは、「人のやらないことをやる」ということ。

誰かの真似をするだけで飽き足らず、自分なりの工夫をしようとする能力。クリエイティブティと呼んでもいいでしょう。

特に日本の教育現場では、このクリエイティブティを伸ばす教育が全くケアされていません。それどころか、クリエイティブなことをしようとする児童や生徒をスポイルしようとすることが多い。しかしこれからの時代は、クリエイティブであることが何よりも重要になります。

今後、最も価値が高い労働は表現労働であり、これまでのような定型処理を没個性的にこなすという仕事は、どんどん価値が下がっていくでしょう。

もう一つの能力は、繰り返しになりますが、こちらもこれまで教育現場で価値を認められなかった能力です。それは他人を思いやる力。いわば「ホスピタリティ」とでも呼ぶべき能力です。

「思いやりのある子です」は褒め言葉ですが、「思いやりがある」という理由で上位の学校に行けることはあり得ません。反対に、「思いやりのない子」でもテストの成績が高いという理由で上位の学校に行くことはごく当たり前にあります。

ところが、テストの成績が高いという能力は、A Iの持つ本質的な能力に勝てません。むしろA Iが苦手とする、「人のやらないことをやる」「他人の気持ちを思いやる」ことを大切にすることが、これからの時代の人々に求められる能力であると言えるでしょう。

（「教養としての生成A I」清水亮著 幻冬舎新書 二〇二三年より）

問一 A Iの出現で何が変わったのでしょうか。筆者の考えを二〇〇字以内で説明しなさい。

問二 今後の時代に価値をもつ能力について、あなたが考えることを六〇〇字以上八〇〇字以内で述べなさい。